

あさカジャ Vol.11

アンニョンハセヨ！

韓国水原市（スウォン）より帰国した湯浅です。

一年間の派遣期間が終了し、先日帰国して旭川市に戻ってきました。そのため、今回が最後のあさカジャになります。

最初は韓国語がほとんど話せない状態で、一人で海外生活を送ることに大きな不安がありましたが、一年間現地で生活する中で、日常生活に困らない程度まで語学力を身につけることができました。現地では、水原市役所の職員の皆さんや友人たちが温かく支えてくださり、すぐに安心して生活できるようになりました。

また、この一年間で本当に多くの経験をさせていただきました。旭川市代表団として水原市の行事に参加させていただいたほか、姉妹校協定の締結や青少年交流への同行・同席、観光イベントの補助など、これまでのあさカジャでご紹介した内容以外にも、翻訳補助や市の行事への参加、韓国の伝統文化体験など、さまざまな貴重な機会をいただきました。

そこで、最後のあさカジャでは、私が水原市で担当させていただいた業務や、韓国での経験についてご紹介いたします。



🌸 翻訳補助業務

執務室では、主に日本へ発送する公文書や、日本人観光客向けのパンフレットなどの翻訳補助を担当しました。

公用文の翻訳では、普段あまり使用しない表現や、水原市の標語・政策名なども多く含まれており、最初は難しさを感じる場面も多かったです。単純に言葉を置き換えるだけではなく、行政としての正確さやニュアンスを損なわないように意識する必要があり、何度も確認しながら進めることの大切さを学びました。

また、日本人向けのパンフレットの翻訳では、「わかりやすさ」や「親しみやすさ」を意識する必要があり、公用文とは異なる難しさがありました。読む方の立場に立って表現を考えることで、同じ内容でも伝え方によって印象が大きく変わることを実感しました！

さらに、翻訳を通して韓国と日本の文化や行政の違いに気づく機会も多かったです。直訳では伝わりにくい部分については、背景を理解したうえで表現を工夫する必要があり、言語だけでなく相手の文化や考え方を踏まえることの重要性を学びました。



❀ 伝統行事の参加と住民とのふれあい

韓国の冬の伝統行事であるキムジャンは、初冬に春までの保存食として大量のキムチを漬ける行事で、ユネスコ無形文化遺産にも登録されています。

水原市では、毎年地域ごとにキムジャンが行われ、市と連携する地域の自治組織や福祉団体の代表者、ボランティアの方々が参加されていますが、私も地域の方々とともに参加させていただきました。実際に一緒に作業を行う中で、自然と会話が生まれ、地域の方々の温かさやつながりの強さを感じることができたのが印象的でした！日本ではなかなか経験することのできない、韓国ならではの貴重な伝統文化に直接触れることができ、大変貴重な機会となりました。



キムジャンの様子 (左) と掲載された電子新聞 (右)



また、水原市の友好都市である福井市と10年以上にわたり続けられている、市民同士のオンライン交流にも参加させていただきました。交流には両市それぞれ約10名が参加し、年齢層は50代以上の方が中心ではありましたが、20代や30代の参加者もあり、毎回テーマに沿って、それぞれの言語で一人ずつ発表しながら交流が行われていました。言語や文化の違いがありながらも、参加者の皆さんが非常に和やかな雰囲気の中で楽しそうに交流されている様子が印象に残っています。



オンライン交流の様子

🌸 TOPIK（韓国語能力試験）の受験

11月、現時点での自身の実力確認のためにTOPIKを受験しました。TOPIKは、韓国では年4回、ソウルや水原市のある京畿道、その他地域の大学を会場として実施され、外国人留学生などを中心に多く



ASAHIKAWA CITY

の受験希望者が殺到します。私も申請開始時間と同時に申請を試みましたが、ソウルや京畿道の会場はすぐに満席となり、電車で2時間以上の地域で受験してきました。

TOPIKは、点数によって最低1級から最高6級までの基準があります。わたしの実力は1~2級の初級レベルだったので、9月から毎週日曜日に3級以上の中級対策授業で対策をして試験に臨みました。そのおかげで試験では3級に合格することができました！

4級以上を目指していましたが、自身の実力が確認できたこと、現地の試験会場の雰囲気等を体験できたことは非常にいい経験になったと感じています。



TOPIK試験会場の様子（左）と対策授業の修了式の様子（右）



この派遣期間を通して、実際に現地で生活したからこそ知ることのできた韓国の魅力や、逆に海外で生活したからこそ改めて気づくことのできた日本の良さを、数多く実感することができました。日常の何気ない出来事から業務を通じた経験まで、一つひとつが自分にとって大きな学びとなりました

また、親切な職員の方々をはじめ、多くの方々とのご縁にも恵まれ、韓国の皆さんの温かさや情の深さに触れながら過ごすことができたことは、何よりも心に残る経験です。こうした人とのつながりは、今後も大切にしていきたいと感じています。

旭川市と水原市は姉妹都市提携を結んで36年になります。今回の派遣を通して、その長年にわたる交流の積み重ねの大切さを実感するとともに、今後もこの良好な関係をさらに深めていくことの重要性を強く感じました。今後は、今回の経験を活かしながら、両市の架け橋となれるよう努めていきたいと考えています。

これまであさかジャをご覧いただいた皆様、本当にありがとうございました！

読んでいただいた皆様が、少しでも韓国や水原市に興味を抱いてくれたり、新しい発見をしていただけていたら嬉しいです。



ASAHIKAWA CITY

なお、私は帰国しましたが、この4月から新たな職員が派遣され、すでに韓国での活動を開始しています。次回からはその職員による「あさカジャ」が始まる予定ですので、ぜひ引き続きご覧いただけますと幸いです！

それでは皆さん、アンニョン！ ✨



これまでご覧いただき、ありがとうございました！

